

水仙

櫛の木が七度芽吹いて葉を散らした後も
わたしには

あなたが振りはらう虫ほどの重みもない

一つ空の下にいなながら

わたしたちを照らしているのは別々の太陽

同じ土の上においても

わたしたちが吸っているのは それぞれちがう名前の空気

水仙が黄色い花をゆらすとき

わたしのほほえみは

あなたにとって踏みじじる草の葉一枚ほどの輝きもない

カーディナルが高らかに鳴き誇るとき

わたしのことばは

風に揺れる梢のざわめきよりも

あなたの耳には意味がない

わたしには

あなたが振りはらう小虫ほどの重みもない

小虫ほども